

## 家庭教育力の強化を図る

# 家庭・地域・学校が連携するPTA活動

津島市立神島田小学校PTA

### 1 はじめに

本校は津島市の南東部に位置し、校区は日光川沿いに南北に細長く広がる。学校の歴史は明治期にさかのぼり、間もなく創立150周年を迎える地域に支えられた伝統のある学校である。本年度は、児童数380名、学級数19（含む特別支援6）、PTA会員は270世帯でスタートした。近年、少子化の影響もあって児童数は減少傾向にはある。



【神島田小学校校門】

学校・地域・家庭で子どもたちを育てていこうと、本校では継続して地域との結びつきを深めるための取組が行われている。特に地域学校協働本部の活動の中心となる「神島田サポート」（PTA会員・OB・OGで組織されるボランティアグループ）が、積極的に学校教育活動の支援をする体制ができており、低学年の生活科の授業や学区探検の補助、読み聞かせ等を進めてくれている。



【運動場から校舎を眺める】

### 2 研究への取組

#### (1) 研究のねらい

近年の急激な社会情勢の変化に伴い、子どもを取り巻く環境は大きく変わってきている。古くから地域に住み、三世帯同居の家庭も見られる中、核家族化が進み、家庭の生活スタイルや価値観も多様化してきている。地域で町内会、子供会といった組織の運営が難しくなっていることと同じくして、PTA活動にも多くの課題が出てきている。コロナ禍を機に、組織、活動内容、委員数等のスリム化を考え、変革をし、持続可能なPTA活動をめざしていきたい。

本校には家庭環境が複雑な子どもたちが多く存在する。校区内には児童養護施設もあり、子どもの健全育成のためには、それぞれの家庭環境に配慮し、今日的課題を探りながら、学校・地域・家庭が連携をし、子どもたちを育てていくことが重要な課題となる。その中で、PTAとしては、「心と体の健康」をテーマに、家庭教育力の強化を図り、地域・学校と連携を深め、多くの手で地域の子どもを育てていける体制を、組織改革とともに考えていきたい。

#### (2) PTAの組織と活動内容

本校のPTAは、会長、副会長3名（うち1名は母代）、会計の『3役』と、「研修保健委員会」「生活・安全委員会」の二つの『専門委員会』、そ

して『ベルマーク委員会』が組織されている。会長以外の3役、専門委員会の委員は、各地区から選ばれた常任委員より割り振り、決定される。常任委員の人数は、地区の家庭数の推移により、見直しを定期的に行っており、児童数・家庭数の減少により常任委員数を昨年度大幅に減らし、三つあった専門委員会も、二つに精選した。専門委員会の活動内容は以下の通りである。

＜研修保健委員会＞

- 研修会の企画・運営
- 学校保健委員会への参加 など

＜生活安全委員会＞

- 長期休業（夏・冬休み）の前後の挨拶運動
- 防犯パトロール など

ベルマーク委員会については、学級連絡委員という役割も兼ねており、以前は、委員を投票で決めていた。昨年度より、ボランティア活動の意味合いを強くし、立候補で決定し、人数は決めないということになった。なお、各学年の保護者がいるので、ベルマークの収集活動とともに、情報交換の場としての役目も果たしている。

### 3 実践活動の概要

(1) 子どもたちの健全育成のために

#### ① PTA研修会

「子どもたちのため」に、学びたいことはたくさんある。しかし、PTA研修会には、仕事等で時間がとれないためか、会員の参加が少なく、企画運営には頭を悩ませる現状である。そこで、参加しやすいよう、開催を授業参観日と兼ね、密を避け、少人数でと企画した。

今年度は、一般財団法人日本ペップトーク普及協会の認定講演講師である鈴木孝氏を招き、「やる気を引き出す言葉かけ」をテーマに『ペップトーク』の講習会を実施した。日頃、子どもたちへの接し方で悩んでいた保護者からは、「もっとポジティブな言葉をかけよう」「子どもへの声かけ等、改めて考える良い機会だった」など、とても役だったという声をいただいた。仕事をしている保護者からは、何回も休みをとらなくてもよいので参加しやすいという声もいただき、これまでの倍以上の人数が集まった。講習会自体が堅苦しく自分から参加しにくい、といった方もいることがわかり、学校へ行く機会をうまく使って、子育てに関することを学ぶことができるようにすることで、研修会を有意義なものとして継続していけるようにしたい。



【講師の鈴木孝先生と講習会の様子】

## ② 学校保健委員会

家庭教育力の強化を図るには、まず、子どもを知ること。年1回、学校保健委員会にPTA常任委員も参加している。昨年度はコロナ禍にあり、児童の参加人数も減らしての学校保健委員会であった。愛知教育大学の鈴木一成先生に来ていただき、「心と体の健康」について運動と関連させ、児童が学ぶ様子を見ることができた。子どもたちの様子を見る機会は大切にしたい。本来ならば、多くの保護者に参加を呼びかけたいところだが、できることを続けていき、より多くの家庭へと繋げていけるようにしたい。



【子どもと一緒に学ぶ】

## (2) 子どもの安全を見守るために

### ① 挨拶運動

夏休み・冬休みの前後一日ずつ、朝の15分間ほどの活動であるが、校門と児童昇降口にて挨拶運動を行っている。児童会の挨拶運動の取組と一緒に実施したことからは始まっているが、現在は、長期休業前後にPTA活動として実施することが定例となってきた。挨拶をしながら、歩いてくる子どもの様子を見ることができたり、通学班の雰囲気を感じたりすることができ、昨年度からは、感染症対策として毎朝行われている児童の健康観察の様子を見ることがもできる。PTAとして、学校と一緒に子どもたちを見ていく姿勢を今後も大切にしたい。

### ② 避難訓練（引き取り訓練）

通用門近くに、飲料水兼用耐震性貯水槽がある。学校の近くを大きな川が流れており、南海トラフ地震の危険性も常にあるなど、災害への注意が必要である。海拔0メートル地帯であるこの地域は、自主防災訓練を毎年実施しており、その際に貯水槽の取扱を地域で確認することになっている。近くに高い建物がない本校では、垂直避難訓練は毎年欠かせないものとなっており、地域の方の避難場所と指定されている。毎年、学校では早い時期に引き取り訓練を行い、家庭と学校の連絡がスムーズにとれること、また、子どもと一緒に帰りながら通学路の危険箇所の点検をすることを目的とし、実施している。引き取り訓練は、家庭の協力は欠かせない。家庭でも防災について考えていけるようにしたい。



【40 m<sup>3</sup>入っている貯水槽】

### (3) 地域とともに

#### ① 親子除草作業

毎年、夏休み最後の土曜日の早朝に、親子除草作業を行っている。校内は、夏休み中に草木が生い茂り、9月に行われる運動会に向けて、整備が必要となる。「学校の周りの道路も同時にきれいにするといいから」と地域の方々が声を出してくださり、P T A・神島田サポート・町内会を含むコミュニティの共催で参加を呼びかけ、数年に渡って続いている活動である。小学生高学年は親子で参加するようP T Aから呼びかけを続けた結果、コロナ禍でも対策をして多くの参加者が集まり、黙々と除草作業を進めていただけるようになった。

暑い中、早朝から地域の方が持参した草刈り機の音が響き、共に汗を流し、校庭をきれいにすることは、子どもたちにとっても、保護者にとっても、地域に支えられていることを実感できる貴重な機会となっている。



【黙々と除草作業,集まったゴミは100袋以上】

#### ② 見守り隊

P T Aとして、各町内において交代で朝の『旗当番』を割り振っている。毎日の活動として実施することが難しくなっている昨今は、登下校時に「見守り隊」を地域で組織していただいている。朝の登校の見守りだけでなく、一斉下校時、そして、低学年だけの下校時には、「見守り隊」が校門を出るところから、一緒に歩き、車の通行が多い横断歩道を毎日渡してくれている。交通指導員とともに、なくてはならない存在となっており、学校では、毎年4月に全校で「見守り隊との対面式」を実施し、子どもたちに助けていただいていることを意識させている。中でも「永宝団地見守り隊」は、今の保護者が小学生だった時から続いており、その継続した取組は令和元年に文科省から表彰を受けている。



【見守り隊と共に下校】

## 4 おわりに

諸般の事情により、P T A活動への参加は年々消極的になってきているように感じる。社会環境が変わっても、心豊かな子どもの育成を願い、少しでも各家庭の教育力が向上するようなP T A活動の工夫を行っていききたい気持ちは変わらない。また、地域の人々との関わりが希薄となりつつある今、地域ぐるみで行う教育活動のもつ意味は大きい。地域と連携した活動を行うことにより、互いの顔が見え、話ができ、協力し合える関係が生まれる。家庭だけでは難しい教育力向上の手助けになってもらえるようにしていきたい。